十八日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月 金六十錢
□郵税 金十五錢
□一部賣 金二錢
□廣告料一行 金六十錢
□雜報欄 金九十錢
□場所指定一行 金一圓增
□電話（平） 七八六番
□振替口座東京一〇八・五六五
福島縣平市田町十六番地
發行所 磐城毎日新聞社
發行編輯兼印刷人 森合英

[illegible]

食ふか食はれるか

はの字

食ふか食はれるかは、いま日本が直面してゐる場面だと云へよう、支那事變の處理を控へて世界的に騷々しい諸情況より窺つて注意的な問題だと云ふことが出來る、東亞の安定を日本の力で解決しなければならぬことになるのは云ふまでもない、一億一心の叫びも新体制の誕生もこの要請からに外ならない、無理に造つたものでなく時の流れが生んだものなのである、

歴史は我々に世の態の遷り變りを判つきりと見せて呉れるパノラマである、榮枯盛衰とか因果應報とかは廻る川瀬の水車のそのまゝ蔣介石の落魄も英佛の悲運も來たるべきものが來たものではないだらうか、國を汚しながら榮華の夢に耽つたものへの報い、足るを知らざる物質萬能の自由主義、何れも滿れば欠くる世間の習はしである、

權力であれ、物質であれ、もてるもの丶過ぎたる自由はもたざるものに耐へ忍び得ない不自由となることは云ふまでもなく、これを國家的に云ふなら封建制度を打破つた自由主義、何も彼も物質が物を云ふ自由、ブルジョア階級が思ひのまゝであつたのも時の流れが産んだもので即今やかましく唱へ出された諸統制は自由萬喫の食傷から代つてこれも時の流れの産物に過ぎまい

何は兎もあれ時の流れに逆ふものは敗れる、殊に食ふか食はれるかの境に立つてゐるではないか、尙ほ目醒めざるものよ、國家的に眼を開け公益優先の精神に徹底せよと云ふ

文藝

父母が頭かきなで
幸くあれて
いひし言葉ぞ
忘れかねつる
（萬葉集）

愛國の孤兒（下）

〔平〕　藤原廣

さてこのフレデリック大王の下にチーテン將軍といふ偉い將軍があり、この將軍の部下にクルツハーゲンといふ一人の騎兵大尉がありました。この大尉はもとはバルチック海に近い片田舍の貧しい百姓家の子供でした。愈々戰爭が終つて戰爭中數々の手柄をたてた大尉は、故郷のお父さん、お母さんの喜ぶ顏を見ようと思つて郷里に歸つてまゐりました。お父さんお母さんは勳章を胸に下げて立派な騎兵大尉に出世した息子の姿を見てうれし涙を流して喜びました大尉はその後兩親を自分の住んでゐる町に連れて來て孝行をつくしました。その頃ドイツでは百姓は大變いやしいものと思はれて居りましたので將校仲間には『或騎兵大尉の所では土百姓が我々と一緒に食事をする』といつて笑ふものもありました。これは大尉でも親達を客の前に出してお客樣と同じ食卓につかせてゐたからです。しかし大尉はこの噂を耳にしますと『何といふ馬鹿なことをいふ人たちだらう。お父さんお母さんは私を生んで育ててくれた恩人です。陛下の軍人になる前に私はお父さんやお母さんの子であつたのだ』といつて氣にもとめませんでした。

この話を聞いたチーテン將軍は非常に大尉の心掛に感心し『大尉は騎兵大尉としてよりも孝行息子としての方が一層ねうちがある』といつてほめました。

暫くたつてから大尉が或用事でベルリンにまゐりますと陛下の宮中に於ける宴會にお招きを受けました、將軍から自分が出世しても貧しい親を恥としない感心な將校の話を申し上げてあつたからです。大王は大尉をためして見るつもりで、

『大尉、お前はどういふ家の生れだ、そして兩親は何をしてゐる』とおたづねになりました。尉はあわてる樣子もなく

『陛下！私は百姓の家に生れました。さうして兩親は百姓でございます。兩親と私は陛下のおめぐみを分け合つてゐるのでございます』とお答へしました、陛下はさも滿足さうに

『それでよい、それで好い、誰でも自分の兩親を敬ふのは好いことであつて、兩親を敬ふことを輕んずるやうな者は人と生れた甲斐のないものだ』とおつしやいました。

私はこの話を讀んで大尉の兩親を敬ふ心掛けに感心いたしましたが、最後の大王が大尉を宴會にお招びになつたあのたりを讀んで何だかプロシヤの强かつた理由がわかつたやうな氣がしたのです、みなさん何故でせうか。大王が一大尉の孝行をこんなにまでしてほめて下さる、丁度日本の皇室と人民のやうな親しさがあるではありませんか（完）

短歌鑑賞篇

九條武子

ひとのよ

いとほしと悲しとかつは思へども强きしもとに我心打つ

煩らはし朝の人はあざみゆきぬ夕の人はたたへて過ぎぬ

何事も人間の子のまよひかや月は久遠の冷たき光

まなかひに金色の雲かがよひぬ忘られがたき夕なりけり

連續講談　異說赤穗浪士（いせつあかほらうし）

〔103〕

桃川若燕
畫　城木喬

山家の怪

平八郎は歎息して、

『貧は諸道の妨げなりと云ふが、斯う貧乏しては此の土地に居たいにも居る事が出來ない、これは腕前を磨き旁々諸國武者修業に出掛けよう――』と名主に此事を話し、金がないから餞別を集めて貰つて三原を出立した。

西は九洲の筑紫潟、不知火諸方を見て、それから四國紀州路と出て京地に入り更に道を轉じて中仙道を下らうと美濃國細久手と云ふ處へ來た。折しも秋の末、蜩がミン〳〵鳴いて一入の淋しさ。秋風に吹かれてバラ〳〵と木の葉が落ちて來る、深編笠に手を掛けて空を見上げた平八郎は

『オ、大分暗くなつたな、弦で雨でも降られては堪らぬが……』

と思ふ間をなくバラ〳〵〳〵平八郎大急ぎで樹の下に入つて雨の止むを待つてゐるが却々雨が止まない、その內に日はとつぷりと暮れてしまつた。

『困つたな、何處か宿るところはないか』

と樹の間を見ると焚火の煙りが見える、

『オ、彼れに人が居るに相違ない……』

足を早めて來て見ると萱葺屋根の崩れかゝつた一軒家、堂ともつかず家ともつかない中を覗つて見ると色蒼ざめ痩せた男が坐つてゐる、

『アイヤ、ちよつと物申す、拙者は武者修業に日本諸國を往來致す者此の曖に於いて雨に出會ひ、日は暮れ足が運べぬので難澁致すどうか雨を凌ぐ間一夜のお宿を願ひたうござる、拙者は小林平八郎と申す者』

すると蒼靑な男はしはがれた聲で、

『それはさぞお困りでございませう、御覽の通りの崩れ家上げ參らす品とて御座いませんが、宜しうございましたらどうぞお上り下さいまし』

『早速の承知忝けない、では御厄介に相成る……イヤ別に食事を致さんでも……』

と諸國修業の武士は用意周到なもので豫て携へ來た食物を出して腹を滿たし、與へられた部屋に入つて寢に就いたが、掛けるものは煎餅布團一枚、それでも寒さが凌げるので、それにくるまつて寢てしまふ。

すると二刻もたつたと思ふ頃枕元に人の氣配、

『ハテ何者か……』

其處は要心深い平八郎、傍らに置いてある一刀を握りしめ起き上る、枕元にションボり佇んでゐるのは色蒼ざめた此家の主、何か心配事でもあるか、涙を流し乍ら床の下を指差してゐる、平八郎は、

『御主人でござるか、拙者今日は十五里の道を歩いてゐる疲れてゐる故、御用があらば明朝お話しを承る』

と云ふかと思ふと主人の姿は搔き消す如く見えなくなつた、吃驚した平八郎、

『フーム、不思議な事があるものだ、誰か茲にゐたと思つたが、夢であつたかな――』

訝かしいとは思つたが、疲れが出て如何にも睡いので、その儘横になつてしまふ、翌朝、目を覺し、

『昨夜の樣子から見るとどうも此の家の主人に何かあるに相違ない――』

と起き出でゝ、探したが、影も形も見えない、愈々疑念を抱いた小林平八郎は床下に曰くがあるに相違ないと簀の子を剝つて見ると床下の土にまみれて埋められてあるのは鼠色の縮緬財布、手に取り上げて中を改めると金が三十兩と越後頸城郡高田本町伊勢屋小谷金助と記した名札が出てきた。

特別大興行（正月十四日より上映）
松竹大船豪華篇、一つの不幸がとりもどした三つの幸福生々しい家庭問題と社會問題の交流
バラ
命あらば
桑野通子、坪內美子
島崎潑、高倉彰
原保美
久々に見る桑野、坪內の美しい競演、潑剌息をもつかせぬ魅了作
日活連續時代劇、原健作、河部五郎主演
第二篇 まぼろし城（死の旋風）
倒すか、倒されるか微妙な賽の目は飛彈の山間に投られた謎の鐵假面…まぼろし城主の陰謀に單身挑む月之介の息づまる死の旋風、神州山繪圖は果して誰の手に
松竹大船異色篇
お母さん
三宅邦子、朝霧鏡子、大塚君代
吉川滿子、其他オールキャスト
母親の盲目的な愛情がどんな負擔を負はしめるか、年頃の方にもお母さん方にも是非見て戴きたい異色篇
……文化映畫 大島火山 日本及海外ニュース……
御觀覽料 大人五十錢 小人十五錢
松竹平館

興亞の晴衣
國民服
一着万能
職場に
儀場に
戰場に
カタログ進呈致します
平市銀座
大崎屋洋服店
電話九六番

メガネ專門店
メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

便利で經濟な日下家政婦會の派出婦を御利用下さい
身元確かで品行方正ですから何をお任せしてもご安心です
平市一丁目三一番地（電話七二三番）
日下家政婦會
會長 日下すい子
會員同志の御加入（派出なき閑暇に裁縫や編物をお教授致します）を御誘ひ致します

日の出醬油
釀造元 綿屋商店
小名濱町（電話二十九番）
千代田生命保險相互會社
富國徵兵保險相互會社
日產火災海上保險株式會社
代理店

りん病 こしけ 專門藥
岩里 別府淋藥 一週間分 參圓（黑） 五圓（赤）
痛みある病、熱ある病
岩里 別府散 七包入 五十錢 十五包入 壹圓
製藥本舗 別府市 岩里天然堂
代理店 平市古鍛冶町一〇 阿康藥局 電話四四番 振替東京三〇〇六五番

社中の皆樣へ謹告
十九日（第三日曜日）の研究會には東京から家元師匠吉村幸丘先生御來場、研究會及び懇親會を開催する事になりましたから左記御含みの上多數御出席下さるやう願ひます
一、日時 十九日午前九時より
一、會場 平市一丁目六 公會堂日本間
晝食は用意致します
池坊龍生派華道研究所
岡田華悦

◇和文歐文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇謄寫版並に附屬品
東邦タイプライター代理店
東邦タイピスト養成所
平市田町銀座街
藤森（藤森事務用器商會）
電話三七〇番
振替仙臺五一番

建築木材ノ御用命ハ
木材、天上板
ベニヤ板、建具材
木羽、便利瓦
建築木材一式
織田材木商店
平市 電四九〇番
製材工場 磐越東線赤井驛前（大作場）電二三五

齒科一般
佐々木齒科醫院
日本齒科醫學士 佐々木三郎
泉村小學校前 電話一番

お宅の体溫計は正確ですか？
毎月十日は無料で体溫計を檢查して差上げます、どうぞ御遠慮なくお持ち下さい

營業課目
醫療藥品 有名賣藥 食糧品 寫眞機材料 吸入用酸素
工業藥品 衞生材料 染料塗料 化粧品各種 計量器各種
計量器指定販賣所 みやこ染特約店
養生堂
小名濱町本町通り 電一四七

口腔外科、齒科一般 レントゲン科
門馬齒科醫院
院長 門馬忠男
小名濱町中島通

土木建築 鐵道船舶仲仕
三崎組 太田勝康（事務所）
小名濱町日素前 電話五〇番

安田系統の帝國海上
帝國海上火災保險株式會社
平代理店 關內正一
事務取扱者 阿部助次郎
平市二丁目 電話一六番

電話新設「七〇番」を新設致しました

海盛座 四倉座 經營
四倉仲町 齊藤常松

度量衡
モノサシ・升・秤
計量器
體溫器・寒暖計
ハカリの取緒垂系を修繕致します
吸入用酸素純度99%
關內藥局
平四丁目 電話四③番

小兒科
內科
◎入院隨時◎
酒井醫院
平市南町（電五五番）
醫學博士 酒井保

附屬產院 新設
姙產婦入院隨意
產科 婦人科
木村病院
平市新川町 電話一六四番

病室增築、手術室完備
產科 婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
平市新川町「電話二二六九番」

平病院（元共濟病院跡）（電話四一番）
院主院長 醫學博士 鈴木定藏
內科、小兒科 レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
內藏一般外科 皮膚泌尿器科 副院長 高橋俊幸
藥劑師 部長 吉本幸平
毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます急患は此の限りにあらず

手術室完備
外科專門 野村外科
小名濱町古湊 元津村屋跡

磁氣應用治療（マグネタイザー適應症）
【循環器系統】血壓亢進症、動脈硬化症、心臟病、心悸亢進症、貧血症、肩の凝り、
【神經系統】神經衰弱、不眠症、ヒステリー、神經痛、頭痛、小兒痲痺腦溢血、腦充血、腦貧血、腦膜炎、中風、
【消化器系統】胃痛、胃擴張、胃酸過多、胃痙攣、胃腸加答兒、脚氣、消化不良、便祕、下痢、胃潰瘍
【呼吸器系統】喘息、ルキレキ、肺炎、肋膜炎、肺尖加答兒肺結核、感冒、
【泌尿生殖器系統】淋疾、消渴、腎臟炎、膀胱加答兒、副睪丸炎、性慾減退、糖尿病
【婦人科系統】子宮癌、月經不順、其他一般婦人病並に產前產後の諸病、淋毒性子宮疾患
【外傷其他】打撲傷、脊髓カリエス、骨髓炎、骨膜炎、淋毒性關節炎、レウマチス、蓄膿症、耳鳴、中耳炎、痔疾皮膚病一般等
平市田町（驛前）
シンガーミシン會社二階
物理療法磁惠院

おでんとヤキトリ
田町末廣トナリ
一柳

平地區組合
近村側加盟成る
創立準備を急ぎ
發起人から小委員を選任

平商業組合（地區組合）の近村加入問題は赤井上下小川側の諒解成つて全部加盟するに至つた爲近村側から二十名の發起人を擧げて去る十五日平側發起人と初會議を開き協議の結果、發起人の內から更に十一名の小委員を選任、平市側の發起人で作製した組合定款を査討する外組合創立に關する萬般の計畫を樹て發起人會の承認を求めて急速に創立總會を開く事に成つた、近村側の發起人及小委員は次の如し

◇發起人

▽內郷村、沼田濱之助、日野定利、仲繪藤伊、佐藤三平、片寄市造、河越七郎、佐藤久太郎、廣瀨貞 ▽好間村、齊藤義明、稻葉八壽三、森永太郎、森笠哲飛田淸吉、渡邊淸 ▽上下小川村、草野吉次郎、草野晴伊 ▽赤井村、草野米彌、樫村周二郎、新妻喜與治、松本政春

◇小委員

▽平市、山崎與三郎、猪狩庄平、菅本庄治、柏原幸次郎 ▽內郷村、日野定利、仲繪藤伊、片寄市造 ▽好間村、森永太郎、稻葉八壽三 ▽上下小川、好間、草野吉次郎、松本政春

地區組合は協力結成
“包含”の誤解一掃
山崎發起人・喜んで語る

別項の如く好間、內郷、赤井側も縣及平市側の地區組合設立趣旨を諒解圓滿裡に大地區制が實現することに成つたが今日まで近村側が獨自の立場を執らんとした原因は『平市に全部包含され、物資配給上圓滑を缺き近村側が繼子扱ひを受ける』が如き印象を受け根本的に認識を誤つてゐてゐたのと『平市の商人に支配される』と云ふ体面上の問題に因るものと見られてゐる、右について發起人總代の山崎與三郎氏は語る

近村側は當初「平市に包含される」と誤解してゐたやうだか、新しく生れる地域組合は時局に沿うた經濟体制を整へて物資の圓滑な流れを期し組合費など複雜化した負擔を輕減することが目的であつて、配給上市町村の區別をつけるやうなものでは絕對に無いのである勿論市に包含されるものでないから同等の立場で相協力してこそ萬全を期すことが出來るものと思ふ、この點町村側も充分諒解して模範的な地區組合の結成されるのを心から喜ぶ次第であります

印刷屋さんも
組合結成
紙類賃金統制に乘出す

平市並に石城郡內印刷業者は紙類賃金その他の統制から今度郡內廣範圍に亘る業者を一丸とした組合を結成することに成り今十八日午後七時からその下打合せ會を平市福島無盡金庫出張所に開いて協議した

時代色を映す『明治、大正、昭和』
流行歌の變遷史
⑥ 明治篇

福島縣第一回慰問使演藝家　中島湖洲述

前述イルマン號の歌は英國と外交的折衝の關係で後に政府から禁止された爲に明治時代の歌曲に關する文獻に存在しないのである。

又二十二年頃の歌に「來たれや來たれ」「孝女白菊の歌」「故郷の歌」「推量節」等二十四年には「敵は幾萬の歌」が出て居る、此頃の國民は對外的に昂奮して居た時で二十四年五月十一日ロシア皇太子ニコラス親王（即ち大正六年の革命に無慘の最期を遂げられたロマノフ家最後の皇帝）は日本漫遊中滋賀縣大津市に於て巡査津田三藏に斬られた事がある

七月には淸國北洋水師提督丁汝昌が定遠、鎭遠の二大艦のほか數艘の新式艦艇を引つれて示威運動に日本まで出かけて來た時だ、國民の氣風は敵愾心で固つて居たのだから此歌の流行したのは當然だと思はれる。

二十五年に「進め矢玉」「ますらたけを」『道は六百八十里」此歌は日清役前に於て歌はれたのだが日露の役には盛かんに歌はれた。

夫から「元寇の歌」（四百余州を擧る十萬余騎の敵）「月下の陣」「櫻花」是れ等も二十五六年頃と思はれるが出所は分らない、やはり日露役前後によく歌はれたものである。

二十六年には「日清談判」二十七年に「豊島の戰爭」『てや懲らせや淸國を』「喇叭の響」「露營の夢」「黃海の大捷」…

征淸の役は明治二十七年八月一日を以て宣戰されたが、九月十三日車駕東京御發輦、十五日から大本營は廣島に移された。

これは當時の通信機關が不備なため戰場との交通に便なる地點にまで大本營を前進せしめ給うたのであつたが東京と違がつて廣島は諸事不自由で誠に恐れ多い事であつたとうけたまはる。

二十九年には「婦人從軍歌」「京の四季」「三角湧」「有明」等がある、

有明の
　ともす油が菜種なり
　蝶が焦れて逢ひに來る
　もとを訊せば深い中
　死ぬも覺悟で來たわいな
　ハア是非とも／＼

是れは二十九頃の流行であるが明治四十三年頃再び流行して多くの替唄が出來、大正年代にも盛に花柳界で歌はれて居た、

「三十年に「大楠公」（櫻井の訣別）の

　青葉しげれる櫻井の
　里のわたりの夕まぐれ
　木の下蔭に駒とめて
　世の行く末をつくづくと
　忍ぶ鎧の袖の上に
　散るは涙かはた露か

南朝忠臣の歌と云ふ本の中には「大楠公」「小楠公」「兒島高德」と三つの歌が出て居る

同じ三十年にわが陸軍及海軍の歌が出た。

◇わが陸軍

輝く朝日の旗おしたてゝ
くり出す隊伍の喇叭の響
さすがに整ふわが陸軍の
光はたちまち海外までも
いやてり渡りて響はこゝに
新高山とぞ世に仰がるゝ
一朝國家に事ある時は
命を捧げて進めや兵士
（以下略す）

◇我海軍歌の

朝日にかがやく日の丸の旗
閃めく御國の軍艦どもよ
千島の果より沖繩までも
開闢此方異國の敵に
二度も今まで穢されざりし
貴き海岸まもれや守れ
敵の軍艦幾百あるも
千尋の底へ沈めてしまへ
（以下略す）

轉失業者對策に
職業補導講習
器具一切貸與手當も支給

中小商工業者の轉失業者に職業を授けるため厚生省では二月一日から四ヶ月間平職業紹介所に「職業補導所」を設置することに決定準備を進めてゐる

同補導所の開設所は平市私立平陽女學校內で收容人員は第一回二十五名で每日夜間六時から九時まで三時間宛訓育、公民、勞働事情、機械製圖等を敎へ込み四ヶ月後には工場へ出て直ちに役に立つやうに指導する譯で講師として平工業學校橘校長初め同校の小野、岡村小檜山敎諭を囑託した

入所者の資格は十六才以上三十五才までの男子で轉失業者に該當する者、但し講習終了後直ちに就職出來ることが必須條件と成つてゐる

受講者に對しては機械器具消耗品等一切を貸與する外一日五十錢以內の手當を支給するから希望者は早急に履歷書と願書を紹介所へ提出されたいと

今回の講習成績で
專門工場建てる
四ヶ月就業を工校で保證

今回の職業補導計畫は平紹介所獨自な試みで今回は機械類の備品を主として二十五名の小範圍に止めたが第一回の講習成績に基き將來は專屬工場を設置し寄宿舍なども建て專門的に轉失業者の指導に乘り出す模樣である、右について縣立工業學校側では四ヶ月間みつちり指導すれば一人前になれずとも直ちに業務につけるやうに成る講習の效果を保證してゐる

舊正月の財況は
幾分活潑を欠く
預金が多く金はダブつく

新正月を表正月と云へば舊正月は裏正月とも云へよう、平地方概はして舊正月氣分が濃厚であり例年なら初賣りなどで街はゴツタ返す景氣なのだが新体制の商業機構の影響で舊正月の旬日に迫つた平市の財況をのぞいて見る……、停車場の貨物の動きはやうやく小口ものが增しては來たが購買力あつても販賣品に乏しく自然從來の樣に物資の動きも示されてゐない、一方金の動きだけは昨年に比して殆んど倍額で何れの銀行も預金の增加と成つてゐるのは喜ばしい又商店街を覗けば商品の動きが販賣購入團体の取引のため荷爲替つきが少ないと同時に商品の動きがかやうに不活潑では、と若干の悲觀が洩らされてゐるやうだ

商人の進路開拓に
過去 現在 將來 調査
縣商業報國隊獨自の計畫

吾等の行くべき道は？

本縣商業報國隊本部では國內經濟体制の强化に對處する前進的計畫を確立する目的の下に縣下の報國隊員に指令を發し、縣內の商人一人殘らず『過去、現在、將來』に亘る詳細な調査票を作製することになり平商業報國隊では市內二十名關係町村各二、三名宛調査員を任命今十五日午後一時から調査員會を開き調査方法について具作的協議を行つた、この調査票は經營者の氏名年齡は元より、業種別、卸小賣別、資本十三、四、五年度の營業狀態、從業員數家族人數、兼業及其の收入『あなたの店の見通しは如何です』一現在の商賣で頑張る人、其の理由、「轉業について」「轉業の目的緣故ありや」「革新的な經營方針ありや、その方法」「企業合同についてどう考へるか」等々數十項の內容に亘り個人的な機密を殆んど網羅され營業上の信用に拘る點など多々ある爲一般的に調査報告に對し危惧を抱く者もあるが調査票は勿論秘密を嚴守他へ漏洩することは絕無であるから各商店共安心して報國隊の計畫に協力されたいと

尙この調査票は二十日に全商店へ配布され二十三日までに調査員が集め集計票を作製の上三十一日縣の本部へ送達される豫定である

獵師の奇貨
甥の腿を射ち貫く

箕輪村大利農鬪場繁夫（一五）は十六日正午頃附近の山林へ叔父の鬪場作一郎（五九）と兎狩りに行つたがその際叔父の作一郎が持つてゐた獵銃が木に引つ掛り發砲、前方にゐた繁夫の左大腿部に命中全治二ヶ月余の重傷を負ひ安齋病院に入院した

鐵屑を賣つて
國防獻金
感心な四少年の篤行

十八日朝市役所の兵事課へ「私たち四人で鐵くづを集め十貫になりましたので屑屋に賣り一圓五十錢になりましたから少しですが兵隊さんに送つて下さい」と平市田町尋常一年金子顯三郎、三年大塚國稅、四年三浦正男、同鈴木伸二の四君が可憐な献金を申出た

新裝の八紘丸
今十八日處女航海に就く

東北興業株式會社との契約により小名濱磐城水產工業株式會社では屢報の如く遠洋漁船八紘丸の新造を急いでゐたが過般淸水港に於て進水し三崎港に廻航し出漁準備を整へ豫定通り十六日午前十一時半滿船飾を施した八紘丸は颯爽として小名濱港內に雄姿を現し投錨した、磐城水產工業では十七日午後二時これが出漁式を魚市場內に祭壇を設け神官か祝詞を奏し嚴肅裡に式を閉ぢたが來賓としては東北興業代表、縣知事代理及び重役、町關係者が參列、午後五時よりは新米に於て祝宴を張つた

新造の八紘丸は鐵鋼船百五十噸、動力はデーゼル二百五十馬力の新銳船で船長は岩木久尾氏である

尙同船は今十八日朝船体を休める暇もなく南洋漁場目指して雄々しく出航した

酒粕利用の合成酒
花見頃出廻る
酒不足緩和策に指導する

平稅務署では淸酒釀造の副產物たる酒粕を利用、藥品と混合した合成酒の釀造を指導すべく管下各釀造元は既に準備を進めてゐるが今年度より着手する模樣である、この酒粕を利用した合成酒の出廻により酒不足も幾分緩和される模樣で春早々各家庭の晩酌としてデビューする手筈となつてゐる

合成酒增石數は各釀造元準備完了と共に平稅務署へ屆出た上で決定する、この混成酒は春の花見時から相當出廻るからゆつくり花見も出來るでせうと平稅務署で語つてゐる

小名濱初常會
生活改善案協議

小名濱常會初委員會は既報の如く十六日午前十時から小學校に開き「公生活」並に「私生活に」關する十數條の實踐事項を申合せ正午散會した

小名濱の舖道
六百米舖裝
新年度早々着工する

平土木監督所小名濱出張所では十六年度工事として縣道本通り約六百米を更に鋪裝工事することに成つた、尙ほ工費その他は四月早々決定する豫定

譽れの遺兒
社頭の對面
石城・平關係十八名

今春の靖國神社臨時大祭に際し光榮の遺兒として護國の英靈と化した父兄と面會する事になつた縣下小學校兒童百十九名中平、石城關係の分は次の通りである（括弧の中は學校名）

◇尋五年生　馬目英夫（平第二）蛭田忠（錦）石川昇（四ツ倉）阿部一次（夏井）道野隆夫（四ツ倉）木村正（大野）越沼久子（磐崎第一）高橋鈴子（內郷第三）高野光子（仝）三瓶タミ子（澤渡）石井啓子（大野）引地キミ子（鹿島）悲山京子（鹿島）秋山克子（山田）蛭田キク子（川部）

◇尋六年生　園部敬美（川部）櫛田多世（上遠野）橋谷田イチ子（好間）

四倉の舊正酒
一戸七合に減じらる

四倉町の舊正月用淸酒は既報の如く昨十日より販賣を開始一戸一升宛の配給の豫定を大野、大浦、草野等の各村へ割當の爲め一戸七合に減じられた

青年校燒失
上遠野火事

十八日午前零時二十分頃石城郡上遠野村青年學校裁縫室から發火同校舍の三敎室と收納室を全燒した損害三千圓原因殘火の不始末

仙稅鑑定部長
酒造巡回指導に來郡

仙台稅務監督局川崎鑑定部長は酒造巡回指導のため二十三四の兩日平稅務署管內に出張改善すべき處を指導する

婦人常會組織
四倉二區第一隣組

四倉町第二區第一隣組では十五日常會を開き欠員中の副組長に宮本量平氏を選任、婦人常會組織に關し協議の結果婦人常會を每月一日開催することゝ成つた尙婦人常會の目的は台所の經濟研究、並に冠婚葬祭等に生活刷新方面を擔任することに成つた

敎育振興策
玉川村で後援會創る

石城郡玉川村では時局下の國民敎育振興策として「國民學校、青年學校敎育後援會」を設けることになり規約を制定準備を進めてゐる、會の目的は學校と生徒兒童の保護者、村民側の密接な連絡を圖り敎育上の後援を爲し左の事業を行ふものである

一、兒童生徒の保護獎勵に關すること
二、學校設備の援助に關すること
三、學校事業の援助に關すること
四、感謝及慶弔に關すること
五、其他敎育上必要なる事業援助に關すること

平市辭令

掃除監督書記　佐川充宏
命衛生主任　渡邊源彌
命書記財務係
掃除監督　佐藤正志
依願解職

市工校委員會
土地問題を協議

平市工業學校建設委員會は十八日午前十時から市會議事堂に開き敷地問題で協議した

松崎一等兵
廿二日無言の凱旋

四倉町新町出身一等兵故松崎榮君は二十二日午後六時五分四倉驛着列車で無言の凱旋をする

尙同君の町葬は舊臘中凱旋した仲町出身兵長故箱崎榮君と併せて二十三日午後一時から全町小學校で執行する

平市慶弔錄

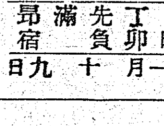
【出生】平市四軒町二十二番地鈴木賢長男昭一△平市五丁目十三番地現住所東京市荒川區酒井豊長女初子

【婚姻】平市鎌田町三十五番地渡邊巳坐雄（二九）宮城縣伊具郡大內村大內目黑よね（二四）、平市新川町廿二番地吉田泰造（二九）と平市中平窪市横マクラ三十五番地根本ムメ（二六）さん

【死亡】平市月見町七番地國井勝榮（五三）平市白銀町十五番地平田喜作妻コト（六〇）△平市十五丁目三十番地居住本籍廣島縣神石郡永渡村八盥ツル（六二）△平市鎌田町四十五番地高島志郎（三）△平市田町六十八番地神谷チヨ子（八）

天氣豫報

今晩　北西の風晴れ勝ち一時曇り
明日　北西の風晴れ勝ち一時曇ることもある
（十九日）
滿潮　前八、一五　後八、三五
干潮　前一、三五　後二、三五



舊十二月廿二日　日曜　丁卯　先負　滿　昴宿
新一月十九日

▲一白　物事躊躇なく進むに善く大事も通進すべし
▲二黑　眼前の私利を思はず遠き慮り無かる可らず
▲三碧　謙遜辭讓を旨として上下の交り深ければ吉
▲四綠　充分に思慮分別せし積りにても期待に反す
▲五黃　事物停滯し易き日氣に緩みを生ずる事勿れ
▲六白　前途を思はゞ輕卒に事を企て難し熟慮肝要
▲七赤　希望のみ大にして實力之れに伴はぬ不安日
▲八日　實直に本業を守りて投機的の事を爲ぬが吉
▲九紫　志望は遂げ計畫は成り大に發達する大吉日

▽募集

夫婦者　月給百圓　五十才マデ
但シ仕事ハ枕ヲ作ル【特點・一戸ヲ貸與ス家賃不要　素人モスグ覺エル】

女中（台所希望者）（ミシン希望者）各二名　十五才以上

店員……五名　十五才以上

【月給・年期・前貸モ可・女中ハ夜間裁縫・店員ハ青年學校へ通學ヲ許可ス】

希望者ハ御照會乞フ

『フトン袋』『各種枕』

卸商　富士屋商店
東京市淺草區東三筋町六
藤澤二郎

產科 婦人科　根本醫院
平市南町　電話三四番
根本莊次郎
根本貞雄
入院隨時

愛讀者慰安映畫會

一月廿二、三日二日間限り

日活超特作　大佛次郎原作
嵐寛壽郎主演　月形龍之助、澤村國太郎
其他オールスターキャスト

天狗廻狀大會
前篇、後篇、同時上映

一通の天狗廻狀なる挑戰狀に鞍馬天狗が死鬪を續けるおなじみの寛壽郎の大活躍

其他特別番外上映
文化映畫
日本ニユース
海外ニユース

會場　松竹平館

愛讀者優待券御持參なき方は左記料金申受ます

御觀覽料　大人四十錢　小人十五錢

磐城毎日愛讀者
優待券
一月廿二日 廿三日の二日間
此ノ券御持參ノ方ニ限リ
大人 二十錢
小人 十錢
松竹平館

切……取……り……線

磐城毎日愛讀者
優待券
一月廿二日 廿三日の二日間
此ノ券御持參ノ方ニ限リ
大人 二十錢
小人 十錢
松竹平館